

松江工業高等専門学校

同窓会 会報

第14号

2024.9.1発行

同窓会事務局

〒690-8518 島根県松江市西生馬町14-4 松江工業高等専門学校内
TEL: 0852-36-5111 FAX: 0852-36-5119 E-mail: dosokai-jimukyoku@matsue-ct.jp<https://dosokai.matsue-ct.jp/>

新たなメンバーを加えスタート!

松江工業高等専門学校同窓会 会長 陶山 知政 (24期・土木)



例年になくうだるような暑い日が続く今日この頃ではありますが、会員の皆様におかれましては健康に留意され、各界各分野において益々ご活躍のことと思います。

いよいよ本年、我が母校松江高専は学校創立60周年を迎えることとなりました。高度成長期を迎える昭和39年に開校となった松江高専は時代の要請に対応すべく、数多くの優秀なエンジニアを輩出し続け、今日まで規模を拡大しながら60周年を迎えられることは大変喜ばしく、また卒業生として大変誇らしいことであると感じています。

こうした母校が長く存在し続けられるのは、これまでの同窓会の会員の皆様のご活躍の賜物であると言っても過言ではないと思っています。

来たる11月16日には学校主催の記念式典や記念植樹など、種々の催し物が計画されていることですので、学校のホームページにある「創立60周年記念事業特設ページ」をご覧ください。母校を訪れられてはいかがでしょうか。さて本同窓会は、この60周年を迎えるタイミングに合わせて理事構成メンバーの見直しを実施し、新たな体制にて、スタートを切ったところで

す。これまでの構成員は、1期から24期までに集中するとともに、女性役員が不在であるなど、バランスを欠いた組織となっておりますが、この度、事務局の熱心な声掛けのおかげもあり、多くの若い世代の会員の皆様に理事を引き受けていただき課題を解消することができたと感じています。

新たなメンバーには、30期代から50期代の卒業の理事が数名加わったこともあり、その甲斐あってか、先日開催した今年度第1回目の理事会においては、私が会長に就任して以降、今までにないくらい活発な議論が行われ、会員相互の交流が深まる活性化した組織になっていくのではないかと大きな期待に胸を膨らませているところです。

振り返ってみますと私が会長を引き受けたのは、学校創立50周年が終わった翌年でしたので、今年が丁度10年目にあたります。コロナ禍もあり思うような活動ができない時期もありましたが、この10年、果たして自分は同窓会のために何ができたのだろうと自問自答をしています。

新たなメンバーを加えた新体制で、本同窓会が会員の皆様にとって身近な存在に感じていただけるよう一層努めてまいりたいと考えておりますので、引き続き、同窓会活動にご理解・ご協力を賜りますようお願いいたします。会報発行にあたっての挨拶とさせていただきます。

校長ご挨拶

松江工業高等専門学校 校長 和田 清



日頃、皆様には格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。

お陰様をもちまして、本年、本校は創立60周年を迎えます。本校ホームページをご覧くださいと、創立60周年記念事業が掲載されていますので、ご覧いただければ幸いです。

60年前の1964年は、アジア圏で最初の東京オリンピックが開催され、交通網やインフラ整備などが進む高度経済成長期でした。その後、昭和、平成を経て、令和の時代に入り、今年3月末までに、本科卒業生8,991名、専攻科修了生652名の合計9,643名を社会へ送り出し、皆様は多種多様な分野で優秀な人材として活躍されています。

全国の国立高専は、2004年に独立行政法人国立高等専門学校機構の一法人となり、統合化により51校55キャンパスへと推移しました。全国51校を合わせると、約5万人(1学年約1万人)が学んでいます。現在の18歳人口が約110万人ですので、近年、約0.9%の高専に多くの期待が寄せられています。

一つは求人倍率。本科の進路は、ここ数年、就職55～60%、進学40～45%となっています。就職希望の本科生約100名に対して、求人数は県内300、県外3,800の計4,100程度で、学生1人あたり平均40社以上となります。本科4年ではインターンシップを経験し、社風や仕事の魅力を感じたり、逆の場合は同業種他社や他業種へ志向を変化させているようです。

二つ目はスタートアップ教育環境支援。2022年5月に旧実習工場が改修され、「イノベーション・ハブ・まつえ」として新設されました。昨年度は、この中に起業家工房や関連設備が充実され、15歳から起業家マインドを持った学生を後押し、地域の社会課題解決に向けた活動が始まりました。ロボコン、プロコン、デザコンだけでなく、自らの技術を用いて学生が地域をフィールドに活動するチャレンジも徐々に増えてきています。

三つ目はグローバルエンジニア育成事業。コロナ禍で中断していた学生の海外研修も再開し、昨年度は62名が、ドイツ、シドニー、ハワイ、韓国などに出かけました。また、専攻科生3名は、海外の国際会議で研究発表するなど、学生時に経験する海外渡航は多くの

気づきをもたらします。また、今年6～7月の1ヶ月間、タイ高専(KMUTT)・オートメーション工学科からの3年生24名を受け入れて、実験実習やプログラミング、専攻科生とのPBL創造工学演習、企業見学などを実施しました。本校としては初の試みでしたので、来年度までの2年間、学生・教職員にとって「内なるグローバル化」が確実に進展します。

それ以外にも、文部科学省が進める「数理・データサイエンス・AI教育プログラム」の認定、小中学生と高専生が連携して創造性を育む「早期STEAM教育」、民間人材(BIZREACH)を活用して新たな社会を牽引する人材育成事業、次世代基盤技術「DX(AI、サイバー他)」領域から「GX(半導体、蓄電池、再生可能エネルギー)」領域の教育パッケージ化など、本校における教育の伸長・深化させる方向性を見定める必要があります。

以前にもお話ししましたが、高専教育は、わが国が創設したユニークな高等教育機関として、全国高専の卒業生は約50万人に達しています。高専教育における人材育成は、学生が育ち成長する機会を与え、社会が健康で持続的にwell-beingに向けて、新しい価値を創出する技術者(Social Doctors, Creator, Innovatorなど)としての役割を担うこととなります。松江高専の教育目標は、「(ま)学んで(つ)創れる(え)エンジニア」の育成であり、実践力、創造力などを兼ね備えたグローバルなエンジニアを目指すものです。

高専制度創設60周年の節目(2022年)を機に、すべての高専生の互助ネットワークを有形化し、継続性のある互助活動を行うことを目的として「一般社団法人高専人会」が設立されました。どの高専を卒業しても「高専人」と呼称を統一し、各校の同窓会と連携して、全卒業生(約50万人)のネットワークを構築しようとするものです。高専は60年を経て、社会変革にチャレンジし、科学技術の成果を社会実装することで、人や社会にイノベーションをもたらす高度なエンジニアを育成する段階に入っています。これからは地域を知り世界を知り自らを知って、高い志と粘り強さを特長とする「高専スピリッツ」で社会に貢献することを基本にして、更なる飛躍に努めたいと考えています。

最後になりましたが、皆様のご活躍とご健勝を祈念するとともに、引き続き、松江高専の教育・研究、社会連携を通じてより一層の努力をいたす所存ですので、本校の「高度化」「国際化」等にご協力とご支援をいただきますよう、よろしくお願い申し上げます。

グローバルエンジニア育成事業の実施と継続採択

松江工業高等専門学校 グローバルエンジニア育成事業推進室 堀内 匡

本校では、高専機構のグローバルエンジニア育成事業に採択され、2019年度から2023年度まで「グローバルコンピテンシーを備えたエンジニアの循環型育成プログラム」を実施しました。本事業では、持続可能な開発目標(SDGs)を意識した国際的エンジニアの育成に向けて、①英語カリキュラムの再編、②グローバルコモンズの設置、③海外体験プログラムの充実の3つを実施しました。英語カリキュラムの再編では、本科1～2年の「実践英語コミュニケーション1～4」、本科3年の選択科目「実践工学英語」を開講しました。国際交流を促進するための拠点として学内に設置したグローバルコモンズでは、留学生や外国人教員、シンガポールのテマセクポリテクニックとの交流を含む様々なイベントを開催しました。海外体験プログラムはコロナ禍においてはオンライン交流のみでしたが、2022年度後期以降はドイツ、ハワイ、オーストラリア、韓国への研修旅行を実施しました。

本年度に新たなグローバルエンジニア育成事業に継続して採択され、2024年度から5年間の「SDGsマインドを備えたグローバルエンジニアの育成」プログラムを開始しました。この事業を通して、グローバルな資質をもつ学生の育成にさらに力を入れてゆきたいと考えています。

同窓会会員の皆様におかれましても、引き続き、本校の活動にご支援とご協力をいただければ幸いです。



グローバルコモンズ



海外研修(オーストラリア)

松江高専60周年記念行事

●ホームカミングデーの開催について●

松江高専と本会の共催で、下記の通りホームカミングデーを予定しております。

申込み方法などの詳細は、追ってホームページにてご案内いたします。

日 時：令和6年11月16日(土)9:30～11:30

場 所：松江高専内(受付：学憩館 1 階)

対 象：卒業生

内 容：松江高専の沿革などの説明 + キャンパスツアー

※申込み受付時に希望される見学場所などをご入力いただくようにします。可能な限りご希望に沿ったキャンパスツアーが開催できるように準備いたします。

同窓会この1年 (2023年9月～2024年7月)

- 令和5年9月 1日 同窓会報(第13号)発行
- 令和6年3月16日 令和5年度 第2回理事会@松江高専会議室
- 令和6年3月 定年退職教員への記念品贈呈
人文科学科 田邊弘正先生、電気情報工学科 福岡真澄先生、電気情報工学科 別府俊幸先生に記念品を贈呈いたしました。
- 令和6年3月19日 第56回卒業式および第21回専攻科修了式 @島根県民会館
同窓会入会行事として「会長挨拶」と「入会に関するアナウンス」を実施しました。新規の入会者は、165名です。
卒業記念品として、図書カード(500円分)を贈呈いたしました。
- 令和6年6月22日 令和6年度 第1回理事会@松江高専会議室
※理事会資料は年に1回、各クラスの代議員に送付しております。

在校生との交流

学校創立60周年記念OB・OG戦を開催

松江高専硬式野球部OB・OG会

今年4月27日(土)、松江高専野球場において、学校創立60周年記念OB・OG戦を開催しました。当会では会員である元部員と現役部員の交流戦を毎年開いており、今年は地元や全国各地から約30名のOB・OGが参加しました。今回は学校創立60周年を記念して始球式で和田清校長に投球いただき、続いて元部員による合同チームと現役の高専チームが対戦、真剣勝負が繰り広げられました。

試合直後に行われた激励会では、現役部員の皆さんへ当会の吉岡義洋会長(21期・生産機械・松江市ガス局)から励ましのメッセ

ージを贈り、続いて吉岡会長と岡山和秀副会長(21期・機械・浜田ガス(株))より高専チームの山本樹主将(機械5年)と高野連チームの杠蓮太郎主将(情報3年)へ、寄贈品として公式ボールが手渡されました。

一方、同日夜に開催された当会の総会・懇親会にはOB・OG約20名が出席し、ともに松江高専名誉教授で元野球部監督の岡本信之先生と山根繁樹先生を囲んで、グラウンドでの青春の思い出を語り合いました。



現役部員の皆さんと記念撮影



公式ボールを贈呈



始球式の和田校長

(写真提供：野球部顧問・板橋明吉先生)

会員の声

1名の会員の皆様に、松江高専に対する想いを綴っていただきました。

松江高専創立60年に思う 堀江 眞 (3期・土木工学科)

母校 松江高専が創立されてから 60 年を迎えられるとのこと。誠にありがとうございます。母校の活躍が報道されるたび誇らしく拝見しています。

C6627(学生番号)土木工学科三期生として入学した。担任は吉岡達士先生。一クラス男子 40 名。元素記号の暗記、ドイツ語、図学などの授業に戸惑ったが寮生活の中で同級生と同じ課題に向き合い不安も少しは解消され気の合う友達もできた。寮から教室、体育館でバスケ、寮へ帰る往復の毎日で寮の食堂が楽しかった。いつの頃から、寮内で皮膚病が大流行。寮生全員医務室に並んで「右・左・・・よし、次」と検査は恥ずかしい思い出。強烈な薬剤臭と下敷きで仰ぐ音を思い出す。退寮になる 5 年まで、4 年余多くの寮生と四季の行事を共有し同じ釜の飯を食し笑い涙したことは生涯の宝だ。用務員の大森さん、中林のおばさんお世話になったことです。

クラブはバスケ部に入部。E3 田村主将の下、ロータリーの舗装上でバス練習から始まった。中国大会では 2 回優勝したが全国大会は一度出場。レベルの高さを痛感した大会だった。5 年間のバスケ部活動は諸先輩にも恵まれ楽しい思い出。いつの頃から田村主将の早すぎる訃報を聞いた。その後バスケ部 OB で集うこともなく少し残念に思っている。

高専祭・文化祭・体育祭。一年生で名作「赤西蠣太」の演劇にでた。その後文化祭毎に「座頭市」、前川清の「噂の女」などまだカラオケの無い時代、仲間たちのギターやバックコーラスで歌った。中で「座頭市」は十八番(おはこ)となり大いに役立った。「噂の女」は NHK のど自慢に沖縄の工事現場から出て鐘二つだった。5 年時に学園祭の実行委員長を拝命。県民会館中ホールで出雲和紙の人間国宝・安部栄一郎先生のご講演を企画。当日、講演が迫る中、人が集まらず慌てて飛び回り何とか形がとれた。また夕の文化祭は中ホール満席で大盛況に終わった。馬場校長先生から呼ばれ一冊の本を頂戴した。開けると「コンクリート工学」だった。ちなみに友は哲学書だったと聞いた。体育祭ものぼせてやった「えっさっさ」の裸踊りは好評だった。

色々思いおこすも、勉強の記憶は出てこない。馬場校長先生はじめ諸先生の格別のご配慮と温情でこの超低空飛行を卒業させて頂いたことは感謝に耐えない

卒業後 10 年間、民間会社で関西・沖縄など現場を歩き父の死を期に帰省。その後行政・選挙にも関わってきた。この間、宇野先生(先輩)はじめ多くの高専関係各位の支援を頂き今日があると心から感謝している。最近、同期の仲間たちと時々集い学生時代の話で盛り上がっている。



同級生との写真
(2023年8月、左から2番目が筆者)



県民会館での高専祭フィナーレ



体育祭での仮装



「赤西蠣太」の一幕

「会員の声」募集

会員の声にて、高専在学中の思い出や現況について記事を書いてみませんか。書いていただける方は、同窓会事務局までご連絡ください。



より近く、より親しみやすく！
私たちは学生の皆さんの応援団です。

Uターン・スタートアップ
お気軽にご相談ください！

技術講演会・文化講演会・交流会を通じて、
地域産業の交流と活性化を進めています。

松江高専専攻科生への研究助成を通じて、
地域産業の活性化につながる技術シーズと
地域人材の育成を図っています。

松江高専生を対象とした企業説明会を
実施して、**地域人材**の架け橋となります。

会 員 151 社 (県内企業)
賛助会員 9 社
個人会員 66 名 (うち高専教員 60 名)

2024 年 (令和 6 年) 7 月現在

松江テクノフォーラム事務局

〒690-8518 島根県松江市西生馬町14-4 (松江工業高等専門学校内)

TEL: 0852-36-5173 FAX: 0852-36-5119 ✉ mtf@tecnoforum001.onmicrosoft.com



令和5年度 定年退職教員 紹介



大変お世話になりました。

数理科学科(数学) 田邊 弘正 先生

本年3月末をもって松江高専を定年退職いたしました。2010年(平成22年)4月に着任しましたので、14年間勤務させていただいたことになります。25年間勤めた鳥取県の高校教諭としての職を辞しての着任でした。50歳を目前にしての転職でしたし、県立高校とは全く違う高等教育機関である高専という新しい環境に飛び込むことに迷いも不安もあり、右も左もわからない状態でご迷惑ばかりをおかけしましたが、それでも今まで何とかやってこれたのは、まわりの皆さんのお陰かと今更ながら痛感しています。

勤め始めてすぐに感じたのは、松江高専は非常に熱心でバイタリティーあふれる学校だ、ということです。その感想は今でも変わっていません。初めて席をもらった某教員室(6人の教員の共同教員室)での先生方の学生指導(叱責?)や個人面談、部屋にいられた先生方同士の打合せや雑談、訪ねてくる学生の様子や先生方と話をする姿など見聞きして、賑やかな部屋でしたが、いろいろ学ばせていただいたと思います。

この14年間は担任業に関わることが多く、松江高専での思い出は何ですかと聞かれると、あまり特別なことではない日々のSHRや掃除時間や授業での教室の様子とか、高専祭の準備で夜遅くまで居残っているのを見て回ったりとか、授業で怒鳴り上げたこともしばしばでしたし、そういえば、今は行われていない校内マラソン大会などもありましたね、そんな情景になります。目の前のことをこなすのに精一杯で、あまり良い教員ではなかったと思いますし、学校や地域への貢献などほとんどできずにお恥ずかしい限りですが、私自身は、学生や教職員の皆さんのおかげで本当に楽しく充実した日々を送らせていただくことができました。あらためて深く感謝申し上げます。ありがとうございました。

末筆になりますが、退職に際して同窓会より記念品を頂戴いたしました。厚く御礼申し上げます。皆様のご活躍と松江高専の益々の発展をお祈り申し上げます。



26年間楽しませていただきました

電気情報工学科 別府 俊幸 先生

1998年4月に着任したとき、正直に言うと「かなりルーズなところだな」と思いました。校舎の鍵は、夕方に守衛さんが締めるのですが、誰かが通るので夜半には開けっぱなし。校地のあちこちにゴミ捨て用のプレハブがあったのですが、ゴミはあふれ出ている。それでも、やる気のある学生たちがいました。廃品だらけの小部屋と一緒に片づけて工作室を整備し、とりの実験室の授業を他の部屋に動かして、ロボコン部屋としました。「何時までに帰れ」との規則はありませんが、校舎の管理もルーズです。連日深夜までロボットを作り、校内戦で勝利したチームはその勢いで中国地区大会初優勝。全国ベスト4まで勝ち上がりました。6年後には作戦が見事にハマって3度目の地区優勝を飾り、そのまま全国優勝へと突っ走ります。ロボコンでの経験は、2011年からのロボカップ・サッカー参戦へとつながりました。オランダ、ブラジル、中国、ドイツ、名古屋、オーストラリアと世界大会へも出場し、海外の大学チームと戦い(ボコボコにされ)ました。

2002年には、故宮本武明校長から「全権委任(と言われたのだが、途中でいろいろと怒られた)」の施設整備委員長を命ぜられ、翌年の校舎2、3棟改修+専攻科棟新営、3年後の1、4棟改修に携わりました。工事事務所と連日のように深夜まで折衝し、使いやすいようにと考えたフロアプランをほとんど実現させました。学びの庭アーケード、3、4、5棟をつなぐ渡り廊下、共通実験室、それからシャワートイレ。20年を経過した今日でも、自慢できる施設にできたと思っています。

2006年にはカリフォルニア大学サンディエゴ校にEngineering Design研修に出かけました。その内容は日本の学生にも必要と考えて教科書を翻訳、専攻科に科目を開講しました。それからは、日本における「エンジニアリング・デザイン」の研究を続け、成果を2018年に出版しました。この本の縁で、いまは企業の方に製品デザインを語っています。

退職に際し同窓会より記念品をいただきました。ありがとうございます。皆様も毎日楽しく切り拓かれることを願っております。



人生のチャンスをもらった松江高専

電気情報工学科 福間 眞澄 先生

この3月末に松江高専電気情報工学科を定年退職しました。現在は嘱託教員として続いて松江高専にお世話になっています。私は松江高専の電気工学科(13期)の卒業生です。当時、松江高専の学費や寮の生活費は非常に安かったことから、勉学とともに部活動(バスケットボール)も続けられ、卒業後は大学(豊橋技術科学大学)へ進学(編入)できました(1981年)。大学院を卒業後は、大学の研究室の先生にお世話になり、住友電気工業株式会社に入社しました(1985年)。ここでも機会に恵まれ、研究所にて光通信関連の商品の研究開発の仕事をしていただいていた。私が29歳になると、高専で担任をしていただいた山本忠賢先生から松江高専の教員にならないかと声を掛けていただき、教員募集に応募し、島根に帰ってくることになりました(1991年)。

松江高専の学生さんは、将来、日本のみならず世界で活躍するエンジニアになろうとする人達(人材)です。若いエンジニアの価値はどんどん高くなっています。卒業後は、世界に羽ばたく人達もおられると思います。一方で、この地域(地方)は少子高齢化も進んでいます。自然豊かなこの地域の存続に貢献する人達もいて欲しいと思います。

今、地球環境保護のためにCO₂削減や再生可能エネルギーの利用が求められています。私は写真にあるような木炭を利用した蓄電器をこれまで十数年間研究してきました。退職後には中山間地域で、木炭蓄電器をつくり、地産地消で利用しては、などと馬鹿なことを考え、チャレンジしています。

最後に、松江高専の教員として勤めさせてもらった33年間、教職員の皆さん、学生の皆さんには大変お世話になりました。松江高専は、私の人生の中でいろいろなチャンスをもらった学校・職場でした。特に、私の研究室で木炭蓄電器の開発や空間電荷分布測定の研究に付き合ってくれた卒研生の皆さんに感謝を申し上げます。

編集後記

今年も同窓会誌をご覧ください。誠にありがとうございます。今年は例年にも増して日本全国で厳しい暑さが続いております。同窓生の皆様におかれましても、体調管理にはくれぐれもご留意いただき、お元気で過ごしていただければと思います。さて、本誌の記事にも掲載させていただきましたが、今年は松江高専の開校60周年を記念し、秋に記念行事を計画しております。母校での思い出など語り合う場として、多くの同窓生の皆様にご参加いただければ幸いです。